

取組紹介

その2

現場業務のDX推進により業務の効率化を図る

取組内容

- 業務のDX・IT化・システム化に積極的に取り組んでいます。
- 動画撮影による遠隔現場監視、建築主等への報告システムのIT化、図面のIT化、テレワーク、PCのマルチディスプレイ化等を進めています。
- リモート会議システムによる会議の利用等、会社で業務を行わず、現場で仕事を終えられる業務効率化を進めることで直行直帰を実現しています。
- 本社会議を行う場合でも、会社に戻る必要がなくなったため、就業時間中に会議に参加できるようになるなど業務効率化と残業の抑制が同時に進められています。
- 現場監督を2名体制で現場を管理して、テレワークの整備を進めました。コロナ禍のタイミングでテレワーク制度を導入。テレワーク助成金を活用し、PC及びモバイルタブレットの導入、ネットワーク環境の整備を行い、現場も事務系もテレワークや在宅勤務を行ってきました。



取組による効果

- 業務の効率化と同時に、質も高まった上で、残業時間の削減に繋がったと考えています。総務部を中心に、現場から戻らなくてよい業務フローを構築できました。
- 残業時間削減、休暇取得の容易さを実現しています。今まで本社で行っていた業務をできるだけ現場で事前に手分けして行うことでトータルの工数をできるだけ増やさないようにしています。

取組紹介

その3

若手社員のライフ・ワーク・バランス意識向上を推進するコミュニケーション体制

取組内容

- 経営陣や管理職、一般社員が定期的にコミュニケーションを図る機会を多く作っています。
- 3ヶ月に一度現場にて勉強会を開催し、工事知識を学ぶとともに、勉強会後に懇親会を開催しています。従業員には、「仕事も遊びも一生懸命にやりましょう」と、ライフとワークのバランスに努めることを会社や社長からも直接発信しながら、従業員の協力を得るようにしています。
- また、「仕事は一人でやるのではなく全員参加型の二人三脚で行いましょう」ということも情報発信して、実際に可能となる業務体制を構築しています。
- 年に一度は従業員と社長とのトップ面談を行っており、キャリアや社員の個人的な課題や悩みを聞く機会を作っています。
- 毎月行う社内合同会議にて全現場の進捗状況を確認し合い、従業員同士のコミュニケーションを図ることで、お互いにフォローし合い、無理のない業務の進行を促しています。
- 従業員全員参加の会議においては、個々の取組状況を発表し、出来ていること、出来ていないことの抽出や、改善に向けた意見交換を行っています。
- 会社イベント、社員旅行は会社の仕事として、会社経費負担で就業時間として実施しています。



取組による効果

- コロナ禍が落ち着き、従業員から直接コミュニケーションが取れる場を増やしてほしいといった要望もあり、従業員主催で様々な活動が復活し、活気が出ています。
- 一昨年より「福利厚生充実化」「ライフ・ワーク・バランスの取組」を本格的に実施したことにより、会議内容等で従業員間のコミュニケーションや職場環境、労働時間について会社全体が考えるようになってきました。
- 会社イベントの参加率も上がってきて、一体感が増していると感じています。

ライフ・ワーク・バランス EXPO東京 2024

ヒト
企業成長を加速させ、人財が集まる職場へ
～多様な「暮らし方」「働き方」の実現～



立花建設株式会社

全員参加型の二人三脚で
ライフもワークも全力投球



立花建設株式会社

全員参加型の二人三脚で ライフもワークも全力投球

会社概要

代表者名： 代表取締役 立花 武士
 創立(創業)： 1974年
 所在地： 東京都練馬区高野台二丁目27番25号
 TEL： 03-6913-3122
 FAX： 03-3996-8855
 従業員数： 40名
 URL： <https://www.tachibana-kk.co.jp/>
 事業内容： 総合建設業



目的・理念

努力こそ力なり、お客様のニーズに応えた快適空間

建築物とは財産価値の高いものなので、専門的な資格や講習を取得した技術者に相談し施工をすることが大事です。私たちは日頃からお客様に信用されるようにコンプライアンスや技術の向上に努めています。そして私たちは多くの実績から得た豊かな経験と技術力をもとに、感性豊かで創造性に満ちた建物づくりを行っております。
 『お客様への快適なくらしと空間づくりのために』を心に溜め、これからもお客様のニーズや良好な居住環境と安全な建築物の提供を考え、社会の変化に対応しながら活動してまいります。



経営者からのメッセージ

当社は建設業です。建物を通じて、想像力と感性を磨き、技術力と知恵を駆使して、真の価値を作り出すことを会社の理念に掲げています。そのためには、社員が個性を伸ばし、人間性を尊重した関係を持って仕事に取り組む必要があります。また、地域社会に溶け込み、努力を惜しまず日々勉強し、社会の発展に貢献するということが会社も社員も求められましょう。
 しかし、長年建設業の労働環境は劣悪で、そのままでは、社員が個性を伸ばすどころではないし、社会の発展に貢献するように努力したり、勉強したりする余裕も無いと考えて、ライフとワークのバランスを高める取組を始めました。また、女性が現場で働く機会を増やすための取組も進めてきました。女性が働きやすい職場は誰にでも働きやすい職場になります。そういう視点で現場も含めてこれからも取組を進めて参ります。



代表取締役 立花 武士



取組の経緯・背景

7~8年前、取組を開始する以前は、社内全体で労働時間を管理するといった意識がありませんでした。さらに工事の現場は時間外労働をすることが当たり前だという意識さえありました。しかし、少子高齢化が進む中で、働く環境を整備し、様々な状況の方に働いていただける会社にしていくことは、会社を成長させるうえでますます重要になっていくと考えました。
 そこで、働く者に厳しい環境を、働きがいのある優しい環境に変えていくことが、業界を守り、働いている人を守るものと認識して、経営を変えてきました。
 「福利厚生を充実させて、社員の士気を高めたい」「これから会社を盛り上げていく若く優秀な人財/人材がもっと働きやすい職場環境にしたい」「女性がもっと活躍できる場をつくっていききたい」という思いから、社長自身が社員一人一人にライフ・ワーク・バランスを呼び掛け、社内全体で取組を実施するようになり、現在に至っています。



従業員の声



- ITの導入により、今まで会社に帰ってきてから行っていた作業が激減し、日々直行直帰を実現できて、残業時間を減らすことができています。残業が当たり前だと思っていたので、帰宅後も様々なことに取り組めるようになり、以前より効率的で働きやすい環境になっていると思います。社内も活気づいていると感じています。
- 女性が現場に立つことは考えにくい時代が長く続きましたが、現在では現場の女性社員が7名を超えて大きな戦力になっています。性別を問わず、働きやすい環境ができつつあると考えています。

取組紹介

その1

女性現場監督のイメージ向上活動と ファシリティ整備で女性の活躍を推進

取組内容

- 女性が働きやすい職場は、誰にでも働きやすい職場であるという意識をもち、女性の活躍を推進しています。
- 特に女性現場監督のイメージ向上として、自社ホームページで、「建設小町」として現場の女性従業員を紹介しており、バックオフィスだけでなく、建設現場のものづくりの楽しさを知ってもらうように努めています。
- 女性の活動領域を増やす現場ファシリティの充実を図っています。現場に女性用トイレや更衣室等を整備することで、女性が現場の仕事しやすい活動を行っています。また、作業着をリニューアルし、女性用作業着の導入も図り、男性にある待遇はすべて準備するようにしています。
- 女性の積極的採用も進めています。会社説明会では、現場で活躍する女性の姿を紹介するための学生向けパンフレットの配布や現場見学会も実施することで、「女性が建設現場で働く」ということに安心感を持って頂くことに努めています。その結果、会社説明会には多くの女性にご参加頂いています。
- 女性の現場監督のリアルな声を聞いて頂き、できるだけ不安や入社後のギャップが少なくなるよう努めています。

取組による効果

- 積極的なPRと採用で現在では事務部門よりも工事部門に女性が多く配置できるようになってきました。
- 女性の活動領域が男性と変わらないところまでできていると考えています。工事部門にも女性管理職が生まれました。
- 女性の現場監督者・監督候補生の採用が毎年1~2名程度で進んでいます。少しずつではありますが、環境を整備し、広報した効果がでています。

